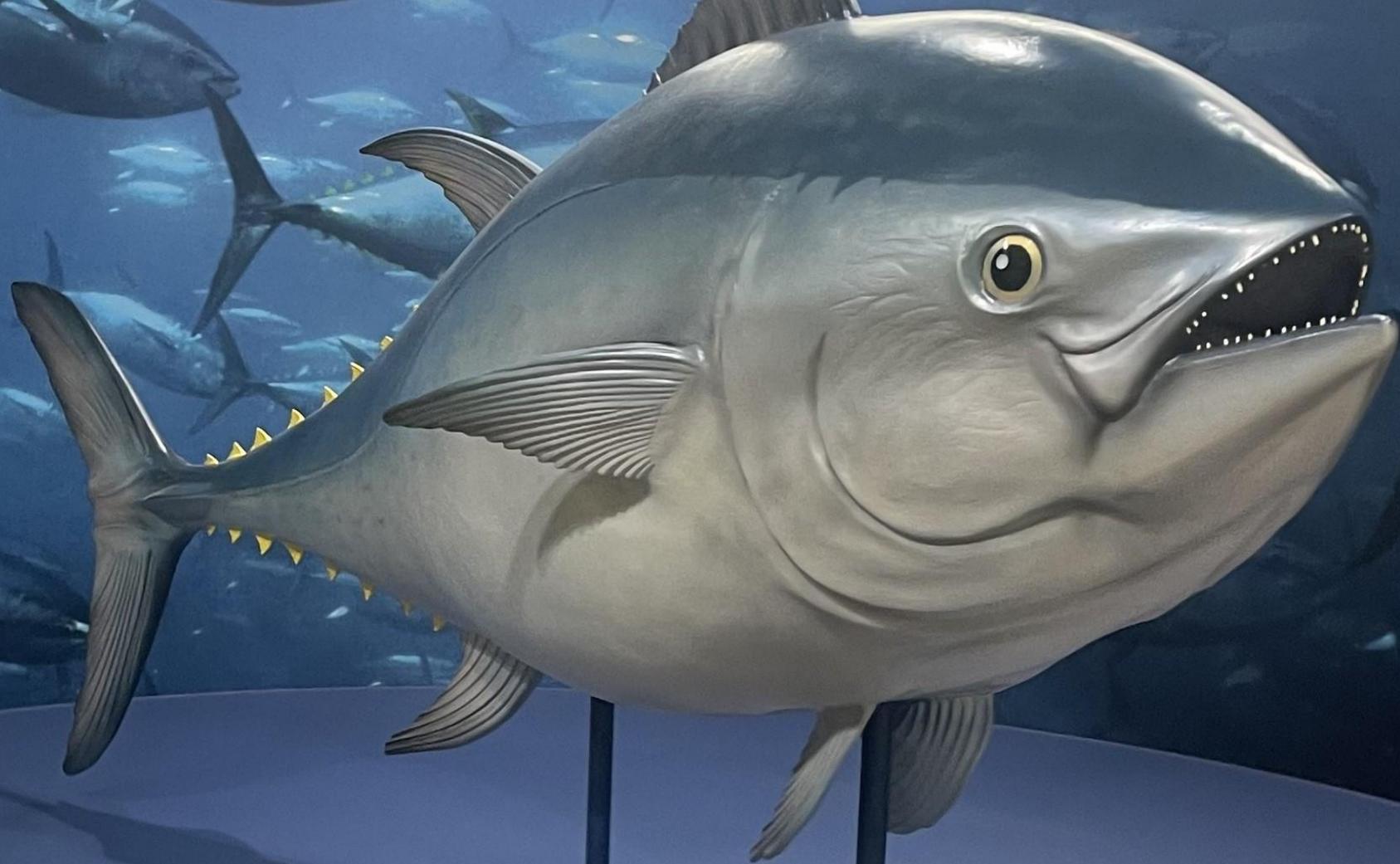


建設・経済委員会県外行政視察



令和6年10月9日~12日

目次

1. 視察概要
2. 視察行程表
3. 視察を終えて・・・
視察先で感じたこと・意見・課題など

棚原 哲也	委員長
盛 本 實	副委員長
宇江原 清	委員
幸 地 猛	委員
喜久里 強	委員
田 端 努	委員
玉城 安雄	議長



視察概要

視 察 名	建設経済委員会 県外行政視察
視 察 期 日	令和6年10月9日～12日
視 察 先	東京都・千葉
視 察 内 容	① 物流・観光に関する意見交換（ソラシドエア） ② 農業 Week2024（幕張/千葉） ③ 豊洲市場（東京）

建設・経済委員会

棚原 哲也 委員長
盛 本 實 副委員長
宇江原総清 委員
幸 地 猛 委員
喜久里 強 委員
田 端 努 委員

※喜久里 猛 委員は所用により欠席

久米島町議会

玉城 安雄 議長

Solaseed Air 
©ソラシドエア



視察行程表

日程	月日 (曜日)	時間	行程
1日目	10月10日 (木)	8:30 10:00 12:25 14:30 16:00 16:30 17:00	那覇空港集合（3F JALチェックインカウンター前） 那覇発902便にて東京（羽田空港）へ 東京（羽田空港）着 行政視察：（株）ソラシドエア様との意見交換 ソラシドエア 新川新一 副社長 藤島浩二 執行役員運送本部長 池田明史 運送本部新規事業推進室長 羽田空港出発→浜松町へ 浜松町駅到着 ホテル着
2日目	10月11日 (金)	9:00 10:00 16:30 17:00 18:00	ホテル出発 幕張メッセ到着 行政視察：農業Week2024（終日） 行政視察終了 幕張メッセ出発 ホテル着
3日目	10月12日 (土)	4:30 5:00 5:30 7:00 11:00 13:50 16:20 17:25 又は 18:10	ホテル出発→豊洲市場へ 豊洲市場着 行政視察：豊洲市場（マグロせり・市場内視察） 行政視察終了 羽田空港着 東京発（羽田空港）917便にて那覇へ 那覇空港着 那覇発881便 又は 883便にて久米島へ

棚原哲也 建設・経済委員長

視察先で感じたこと・意見・課題など

10月8日からの2日間の県内での議員研修を終え10日から12日の予定で建設・経済委員会の東京での視察に出発。東京羽田空港到着後、株式会社ソラシドエア社を訪問。

(株) ソラシドエア社との意見交換から

株式会社ソラシドエア

副社長：新川新一 様

執行役員運送本部長：藤島浩二 様

運送本部新規事業推進室長：
池田明史 様



本町の特産品である車エビの久米島ー那覇ー東京間の試験輸送した結果の報告を受け、今後の取組、課題等について意見交換を行った。

今期の久米島町内車エビ養殖事業では稚エビ生産の不調等で出荷時期の遅れや、従来の空輸便のみでの輸送となったが、久米島ー那覇間を船便に置き換える事での輸送経路変更や、専用コンテナの確保、着荷の状態等、今後テスト輸送を積み重ねることで改善点を洗い出し、本稼働となれば輸送コストの低減につながるのではと感じた。



羽田空港内ソラシドエア社会議室にて

農業Week2024

千葉県幕張メッセで開催されたアジア最大級の農業、畜産の展示会、農業Weekの視察・研修を行った。広大な会場内はスマート農業、農業脱炭素、6次産業化、農畜産資材等が台湾や中国のアジア、アメリカ、欧州等、世界中のメーカーの展示、商談が行われていた。各農家が必要とする設備や資材等は全てがJA等を介し調達できるのではと感じられた。



豊洲市場視察

早朝4時から豊洲市場視察を行う。

全国及び海外より輸入された水産物が衛生管理の整った場内で卸売業者や仲卸業者によりセリや相対取引が行われていた。又海外からのインバウンド見学者が多く東京観光の一躍を担っているように感じた。



豊洲市場視察

盛本實 建設・経済副委員長

視察先で感じたこと・意見・課題など

『10年後の産業はようになる?』の課題解決に向けて

建設・経済委員会は2泊3日の日程で、10年後の産業の課題解決に向けての視察を行った。まず、車エビの輸送体制を課題として（株）ソラシドエアと意見交換、農業関係においては「第14回農業WEEK」（千葉県幕張メッセで開催され農業・畜産総合展。農業資材、スマート農業製品、畜産資材、6次産業化製品、脱炭素・SDGs製品が日本だけでなく世界中から出展、農業法人、畜産農家、農協、参入検討企業などが来場。同時開催展あり、日本最大/アジア最大級の農業展示会）の視察、また豊洲市場のマグロ競りの視察も行った。

(株) ソラシドエア社訪問 (羽田空港内)

同社とは、正式訪問ではなくオープンディスカッション方式で行った。今回は車エビの首都圏への出荷配送可能性についての意見交換を行った。同社においては過去に実証実験を行った経緯もある事から配送事業参入には前向きな意見である。しかし、通年で継続的に配送を望むのであれば、一定の車エビ生産量の確保が必要であるとの意見等々があった。



(株) ソラシドエア社役員と意見交換

《考察》

現状の課題として、輸送体制が確立すれば生産量が増やせるのか、あるいは生産量を増やせば輸送体制の確立は可能かという状況である。生産者側としても市場拡大を目指すのであれば都市圏への開拓が必要であり、その為には輸送体制の確立は不可欠である。また、同社としても社益の為の多面的な意見もある事も確かであり、そうした中で双方の思惑を一致させる為には各々が忌憚のない意見を出し合い当事者意識で取り組む事により先々の見通しが立つのではないかと思われる。我々として臨むのは将来の“車エビ久米島ブランド”化である。

農業WEEK視察（千葉県幕張メッセ）

農業WEEKは5つのEXPOで構成されていた。



農業Week2024 / 幕張メッセ

1. スマート農業EXPO

最新のIT・ドローン・ロボット・食物工場・再生可能エネルギー・人材雇用・参入支援など最新の技術が一堂に出展。

2. 農業資材EXPO

最新のハウス・露地栽培資材・農機・肥料・包装・物流・鳥獣対策などあらゆる資材が一堂に出展。

3. 6次産業化EXPO

食品加工機器・OEM・鮮度・衛生管理・物流・包装・EC販売支援など加工から販売まで支援する企業が一堂に出展。



農業用無人機械



鳥獣対策ドローン

4. 畜産資材EXPO

飼料・給餌器、畜舎、衛生製品などの資材・設備やITを用いた農場/生体管理などのサービスが一堂に出展。



畜産資材

5. 農業 脱炭素・SDGs EXPO

CO₂削減や有機栽培、SDGs推進可能な最新の製品、サービスが一堂に出展。



水耕栽培

《考察》

将来、本町の農業を取り巻く環境はかなり厳しいものがある。特に高齢化による農業者の減少、担い手不足、耕作放棄地の拡大、農地が適切に利用されなくなること（担い手と農地所有者のマッチング不足）等々、農業を取り巻く環境が大きく変化している状況にある。

そこで、一つの参考事例として、本町の農業経営体数の変遷の面から見てみると平成22年（773経営体）、平成27年（689経営体数）、令和2年（565経営体数）であり、10年間で208経営体数が減っている。

このままの状況で推移すると、10年後においては更に経営体数が半減することになり農業経営が成り立たなくなる恐れがある。この様な問題を解決するためには農家、農地の集約化を図りICTやロボット技術など最先端の技術を取り入れ、スマート農業の導入により、少人数で高収入の実現を目指し、生産だけでなく6次産業化や農業の高付加価値化を目指した方が良いのではと思われる。その為、行政を中心として早急なる対策が必要だと思われる。

豊洲マグロ競り市場視察（東京）



マグロ競り風景

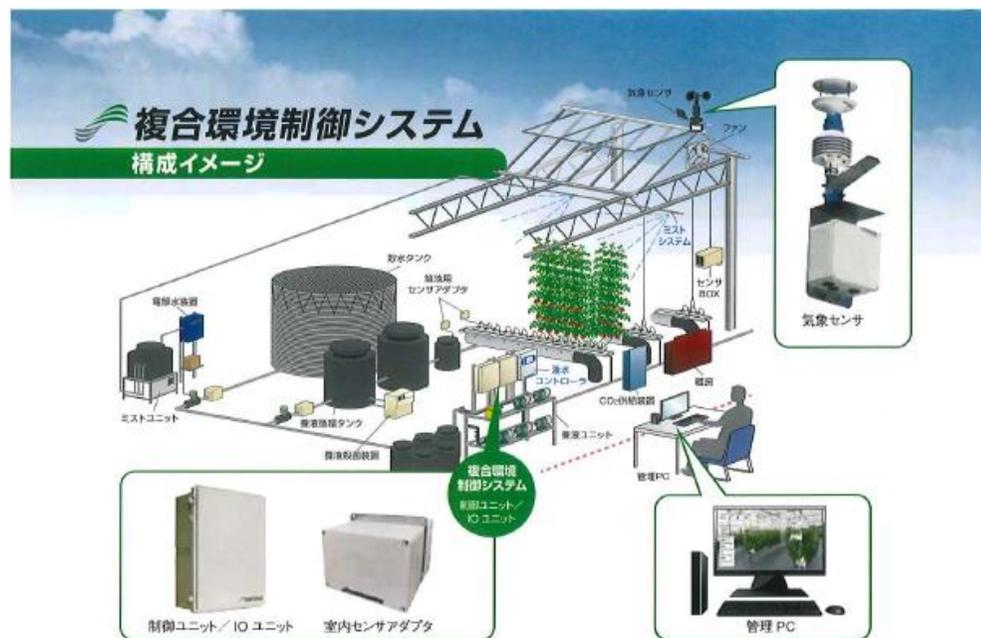
宇江原 総清 建設・経済委員

視察先で感じたこと・意見・課題など

農業Week2024から

シンフォニアテクノロジー株式会社の複合環境制御システムを視察。ビニールハウス上に気象センサーを設置、ハウス内に貯水タンク、溶液循環タンクミストユニット（電解水装置、灌水コントローラー等）を設置する。屋外の離れた管理室では、ビニールハウス内での管理PCによって、ビニールハウスのミストとシステムで水・溶液を送水する。

この複合環境制御システムであらゆる野菜・果実が出来る。沖縄県の知人が国頭の農場でスマホによる農業経営をしている。



シンフォニアテクノロジー株式会社
複合環境制御システム

本町では使用していないビニールハウスが見られる。繁茂地等もあり、この複合環境制御システムを活用することによって、地産地消はもちろん、多くの野菜・果実等が町外にも出荷が可能となる。

本町は「三ちゃん農業」で農地も坪数で呼べる切り売り農業である。これを換地によって、機械化農業が可能な農業で若者が関心を持つ農業にすること。

上記を本町に反映するためには、農地の集約、換地等によって機械化農業を推進する。この場合には、滞納している税金の免除を含めた対応をする事。税金の免除については、法律なり、条例を改正することによって解決することが出来るのではないかと思われる。

※三ちゃん農業とは・・・

農家の働き手であった男性が、農業以外の職業に就き、残された「じいちゃん、ばあちゃん、かあちゃん」で農業を営むこと。

幸地猛 建設・経済委員

視察先で感じたこと・意見・課題など

ソラシドエア社意見交換

活〆冷凍車工ビ配送願いについて意見交換をした。ソラシドエア社としては貨物輸送について前向きな考えを持っているので、久米島側としては定期的に車工ビを出荷できる生産量を確保する必要があるという事を感じた。

今後の県外行政視察の課題として視察研修の際には、説明できる資料等を準備した方が良いと思われた。今回は車工ビの配送依頼ではあるが、久米島の車工ビの現状等の資料持ち合わせてなく、ざっくばらんな会話になり、今後につなげる具体的な話し合いは出来なかった。



ソラシドエア社との意見交換

ソラシドエア社は、宮崎県いちご株式会社、株式会社宮交シティーと「空陸一貫高速小口貨物輸送について事業連携を開始している。

「空陸一貫高速小口貨物輸送事業」とは、地元と首都圏のお客様を繋ぐソラシドエア社の新規事業であり、引き取り（陸送）、航空輸送、納品（空送）をソラシドエア社が一貫して行い、当日中に商品を配送するサービス。当日配送というメリットを活用することによって、距離と時間の壁を越え、首都圏に地元食材の魅力をプロモートしていくという。

空陸一貫小口貨物輸送サービス「ソラチョコ便」
[solachokubin]

地元のさちをソラでつなく  ソラチョコ便
SOLACHOKUBIN

～ソラシドエアからはじまる地元をつなぐ新しいソラのカタチ～



「ソラチョコ便」は、ソラシドエアによる、荷主からの引き取りや納品等の陸上輸送と、航空輸送を一貫して行い、「当日中」にお届けするサービスです。
宮崎市から東京都・神奈川県の一部地域を皮切りにサービスを開始！
2023年5月より鹿児島県がサービスエリアとして追加されました。
今後、他のエリアにも展開していく予定です。
距離と時間の壁を超えた価値をお届けします。

当日中にお届け！



©ソラシドエア

「空陸一貫高速小口貨物輸送事業」

農業Week2024

類似品の多い農作物をいかにして消費者の目につくデザインを開発するか。農家さんに売る力を付けてもらう為の農業から農商へというテーマ。良いものを作っても売れるとは限らない。自分が「良いと思う」ではなくお客様にも「良いと思ってもらう」が大事だという。放牧畜産基準認定制度。株式会社オオツキの子牛用防寒コート、子牛用電熱線マフラー。食品残渣や廃棄有機物の減量化、堆肥化、ペレット化にして製品化。中部エコテック社の農業＋太陽発電農地募集。NTT社の遠隔営農支援の高度化。ロボット実装に向けた課題検討等を視察。

展示会視察という事であったが、幕張メッセ展示場が広く、また海外からの企業参加が多く、目移りしてゆっくりした視察が出来なかった。台湾・中国からの企業が多く、作品展示というより、企業商談が主だったように思った。展示会場が広く、出展会社も多数で一部ブースしか回れませんでした。日本の農業全体に関わる展示だと思えば、海外からの参入も多くあり国際展示場の雰囲気であった。これまでに経験したことのない、農業に関する多くのことを視察することが出来た。

豊洲市場

活マグロからセリが始まり、冷凍マグロの順にセリに移る。朝5時過ぎから始まるセリであったが、外国人が多かった。日本人は我々とほんのわずかな人数であった。外国人に対してはセリ案内係が英語で丁寧に説明・案内をしていた。魚の量も少なくセリの現場が見学場所から遠く、テレビで見るような、セリの活気を実感することが出来なかった。要望としてセリの結果が分かる資料があれば良かったと思う。



豊洲市場マグロ競りの様子

喜久里強 建設・経済委員

視察先で感じたこと・意見・課題など

ソラシドエア社との意見交換から

10月10日、建設経済委員会の行政視察で、羽田空港内ソラシドエア東京事業所で副社長他、役員の皆様と鹿児島県種子島からの活車エビの豊洲市場への出荷及び輸送体制の説明を受けた。豊洲市場での車エビは100%活の状態であるとの話を受け、久米島の活車エビも輸送時間の短縮と温度管理が整えば、今まで以上の量をそれも100%活の状態で豊洲市場へ出荷できる可能性が大きいという印象を受けた。

農業Week2024（幕張メッセ）

翌11日は千葉県幕張メッセにて農業Week2024を視察。これは農業畜産の展示会であり、農業資材、製品、脱炭素、SDGs製品が国内だけでなくアジア中から出展し、農業法人、畜産農家、農協、参入検討企業などが来場。出展企業、来場者間で商談が行われる展示会である。1000社が出展し、出展費1ブース約300万円前後との事。印象的だったことはドローンを活用した肥料や農薬散布、遠隔操作のトラクターであった。これからの久米島の農業を担う若い従事者には是非、視察してもらいたい。



オーブテック社 展示ブース

豊洲市場視察

3日目は午前3時起床で豊洲市場へ行った。見学場所からセリ場への距離が遠く残念ながら生鮮マグロのセリは見学が出来なかった。



豊洲市場マグロセリの様子

田端努 建設・経済委員

視察先で感じたこと・意見・課題など

建設経済委員会において、県外行政視察を10月頃に予定しては、との意見がありました。各委員の皆さんで視察場所の選定について話し合い、委員の皆さんから農業分野（JA）と漁業分野（漁協）で、先進的な取り組み又は最先端技術などの事例はないか、JAと漁協への問い合わせを自分の方に依頼がありました。

農業分野においては、JAと共に候補に挙げていた九州地方の地域が、その当時集中豪雨などで農作物が壊滅的な被害に見舞われてしまい、一旦断念しました。

漁業分野においては、本町の漁業に活用出来る事例が時期的に難しいとの結果でした。その後、JA側から千葉県において「農業Week2024」の開催があるとの連絡があり、前年、視察を行ったJA青壮年部から非常に良かったとの感想を貰い、委員会で検討した結果、偶然にも開催日前に離島振興市町村議会議員研修と町村議会議員研修があり、両研修終了後の翌日から県外視察へ出発する事となりました。

ソラシドエア社での意見交換

今回、沖縄からの到着が羽田空港であった為、羽田に拠点を置き本町の車エビ養殖業者と車エビの輸送について取り組みをしている、株式会社ソラシドエアの役員の皆様との意見交換会を行えないかアポイントを取った所、快く了承して頂き、新川副社長・藤島本部長・池田室長と面談することが出来ました。

7月に行った車エビの羽田までのトライアル輸送の結果や、それに伴う課題についてと、今後の本町からの生鮮魚介類の輸送について、また委員の皆さんからも本町の水産業の現状と課題についてと、海洋深層水を活用した水産資源の確保についてなど活発な意見交換が出来たと思います。今後も本町からの水産物の輸送について、互いに提携していければと言う事で意見交換会を終えました。



ソラシドエア社での意見交換の様子

農業Week2024視察

2日目は、千葉県幕張メッセで開催中の「農業Week2024」の行政視察を行いました。日本を中心とした1000社以上の各分野の企業や海外メーカーも参加しており最新鋭の農業機械や農業技術など、主に商談を目的とした展示や説明会を行われていて、7区画のブースで「スマート農業」「農業脱炭素・SDGs」「6次産業化」「畜産資材」「農業資材」ほか「工具類」と「ガーデン用品」のブースなど、とても1日では回り切れないほどの展示会でした。



農業Week2024



オムニアコンチェルト社農林業用木製ハウス

その中でも、本町でも取り入れている農薬散布ドローンの最先端技術や最新鋭の製品等、今後本町の農業に活かせる機械や技術はないか、見て回りチラシやカタログも多数持ち帰りました。

今後の農業のあり方は大きく変わって行くのではないかと感じました。環境に配慮した農業の脱炭素化や、アクアポニックス・陸上養殖技術などと農作物の生産や加工などのオートメーション化、特にスマート農業のブースではLED技術を活用した土を使わない農業の展示場には、農業部門に参入を考えている一般企業の方が商談来られているとの事で、都会の中での農業もありうる時代になってきたのだと感じました。



城南製作所の追従運搬車



ホシザキ東京株式会社

豊洲市場視察

3日目は、早朝より豊洲市場の水産卸売場のセリの見学に行ってきました。セリ見学者に外国人の方が多くいたのには驚きました。セリの様子は残念ながらガラス越しの見学でしたので、セリ人の活気のある掛け声も聞こえず、遠目からの見学でしたが活気ある雰囲気は感じました。

今回は議員になって初めての県外視察でしたが、やはり聞くのと観るのとでは大違いだと感じました。特に農業weekの会場では近未来の農業という意味では素晴らしい催しであると思いました。是非、来年も同様に催しがあれば若い農業者の皆さんや本町職員（産業振興課等）にも見てもらいたいと思いました。



豊洲市場視察

玉城安雄 久米島町議会 議長

視察先で感じたこと・意見・課題など

ソラシドエア社との意見交換会

令和6年10月10日にソラシドエア社とクルマエビの本島、本土間の空輸の可能性について意見交換を行った。島内の車エビ業者の要請で2回の実証実験を行い、久米島～那覇間の海上輸送、那覇～豊洲市場まで配送し取引状況も踏まえ意見交換を行った。実証試験の結果、定期的な輸送について前向きな考えであることがうかがえた。さらに当日中に製品を配送可能なサービスを実現するには島内車エビ事業者の団結が重要で、定期的に製品を集荷できるような生産体制が重要と感じた。また、新鮮な製品を市場に届けるには横持で使用する冷凍コンテナについての意見もあり整備する必要性を感じた。ざっくばらんな意見交換会であったが、生産者が協力体制を構築し行動することで、その他の本町の特産品についても可能性があるため推移を見守りたい。

農業Week2024(千葉幕張メッセ)

世界中の企業の展示出展があり、どのブースも盛況であった。特に次世代農業分野では各企業や生産法人の取り組みの説明がなされており、ITを活用した野菜工場、食品ロスを活用し堆肥を生産しての循環型農業、太陽光を利用しITで管理し圃場に定期的に散水できるスプリンクラーや点滴チューブなど、本町で提案しているスマート農業の推進にも参考になる展示であった。

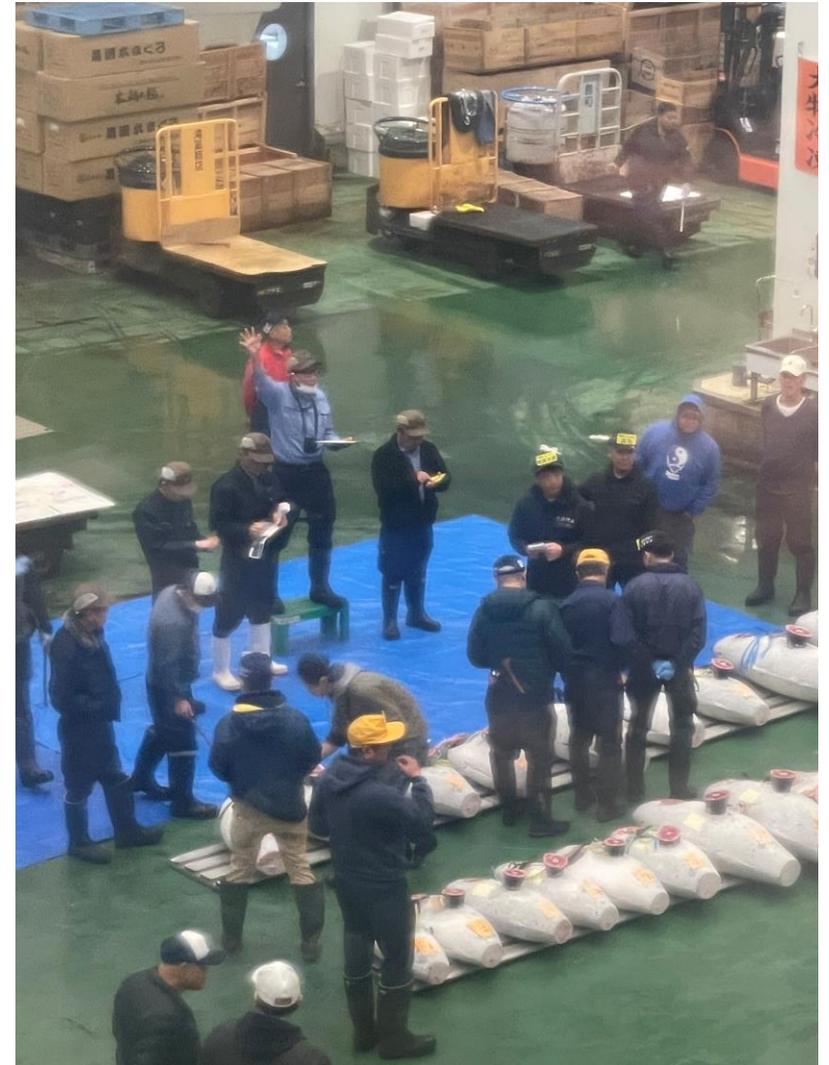
また農業経営においては初期投資が少なく済む生産基盤の構築をわかりやすく説明する企業の展示ブースもあり、新規農業者やスマート農業、6次産業化でもうかる農業を目指す農業生産者には必見のイベントである。その他、最新の農業機械、生産資材等展示があり日本の農業の未来を見据えた展示であり、少子高齢化での後継者不足の本町のような小さな自治体でも参考になる展示もあり有意義な視察であった。



サンエイ工業社ラジコン草刈り機

豊洲市場視察

日本の台所といわれる豊洲セリ市場視察は、セリの開始が早朝5時であった、国内産の活マグロのセリを皮切りに冷凍マグロのセリが複数の個所で行われていた。ほとんどが海外産であるとのこと、視察当日は上場数が少なくあまり活気が見られなかった。見学者も外国人が多く英語での丁寧な案内がなされており混雑などはなかった。早朝の視察のため関連施設の視察ができず、特に仲卸市場を見ることができなかったのは残念である。



豊洲市場マグロセリの様子